

社団法人私立大学情報教育協会

平成 22年度 第1回歯学教育 FD/IT 活用研究委員会、議事概要

- I. 日 時 : 2010 年 6 月 25 日(金) 午前11時～午後2時
- II. 場 所 : 私立大学情報教育協会事務局会議室
- III. 出席者 : 神原正樹委員長、佐藤利英委員、新井一仁委員、岡本公彰委員、
藤井彰アドバイザー、奥村泰彦アドバイザー、
(事務局)井端事務局長、森下主幹、渡邊職員

IV. 議事概要

21 年度の本委員会では、歯科医療教育のグローバルスタンダードなコンピテンシーについて検討して中間報告を Web に掲載したが、議題としては終了し、続きは情報教育研究委員会の別委員会上でまとめることを確認した。今年度全 4 回の委員会で、「学士力を実現させるために、どのような教育モデルを使うことでより学生に歯学を理解させることができるか、モデルコアカリキュラムの項目を絞り、アナログとデジタルを含めた、5 年先まで使える将来性のある、タイプの違う 3 つの具体的な教育モデルを作り上げる」ことを確認した。

討論内容

1. ICT 活用提案について

各委員の専門的分野からの ICT 活用および問題点などについて発言があった。

① 携帯電話を授業内で双方向に利用し、問題に対する理解度を個人レベルで確認する教育方法の事例紹介があり、学生の基礎力をつけさせ、初診時の即時判断をさせる能力をつけることに有効であるとの意見がでた。これに対して更に利用効果と課題を模索し、モデルカリキュラムの教育モデルとして検討することとなった。知識ではどのあたりのレベルが必要か、例えば知識理解に活用する場合は全体の理解、基礎レベル理解、特定知識等のうち、どこを理解させるのに使うのか、技術では診療診断と治療計画に使うのか、どこかの理解が一番役立つのか絞る必要があるのではないか。それぞれの分野でどこに必要か議論を要する。

② 態度教育の必要性と理解のさせ方について案を考える。治療情報が錯綜している中、患者の意見に対して正しい知識を整理し、インフォームド・コンセントで患者に理解させる能力、コミュニケーション力を含めた教育の必要があるとの意見が出た。

③ 「電子ポートフォリオと頭頸部の診療実習 e-ラーニングシステム」事例(資料②. 2)はひとつの提案になるのではないかと意見があった。臨床実習の際ロボットを使い、患者の痛みを表現させることや、器具操作による反応などのシミュレーションを行い、学生の技術到達レベルを評価す

る際に用いている。治療を行う際の患者への安心、安全に関する技術力の部分で、メリットや課題に対するエビデンスを入手し、それらの情報を集積するシステムは、大変興味ある事例ではないかとの意見が出た。この事例は、7月の医学教育学会で発表を予定され、新聞記事(資料⑤)でも紹介された。次回、昭和大学および北海道医療大学から直接お伺いできることを期待する。

その他に、口腔衛生学の分野では、「世界の口腔保健情報と地域の比較」、「将来の予測」などが必要で、例えば「診査の仕方、情報の収集・分析方法」などに ICT を活用し、治療情報の錯綜を整理することが教育、研究に必要であることが述べられた。基礎の分野から、薬物動態実習の際、動物の福祉・愛護の立場および費用対効果の面から、動物実験モデルを使わず、University of Strathclyde, Department of Physiology & Pharmacology のサイトからシミュレーションソフトをダウンロードし、解析を行う事例が述べられた。歯科放射線分野では LAN を利用した「サイバーキャンパス」で6年生の症例報告に利用している事例などが報告された。

第1回委員会では、3つのテーマを設定し、次回委員会時に各自の案や事例、または他大学の情報を持ち寄り将来的な展開について具体的に意見をまとめることとなった。

2. 歯学教育における情報教育(中間まとめ)について

各大学の先生から、委員会が提出した「中間まとめ」に対する意見を求めたところ、約20を超える意見が寄せられた(資料④)。

検討した結果、下記のごとく訂正した(修正箇所” ”、修正内容アンダーラインで記載)。

【到達目標1】 ICTを用いて、歯科医療に必要な情報 “を適正・適切に収集・整理できる” を の収集・整理を適正かつ適切に行うことができる。に修正。

【到達目標1の到達度】 “③情報の剽窃等に関する倫理を身につけている。” を ③情報の取り扱いを社会秩序に照らして、適正に行える。に修正。

【到達目標1の教育内容・教育方法】 ①は、”歯科医療” 情報について、範囲、種類、データサイト等の状況を理解させるために、実際にアクセスさせ、ケーススタディの中で”体験させる。を に関する情報の Web サイトにアクセスさせ、情報の多様性と利用の限界を体験させる。に修正。

【到達目標2】 ” EBM (エビデンス・ベースド・メディスン) を実践するために”、収集した医療情報を分析し、課題の実証・問題の発見に役立てることができる。を EBM (エビデンス・ベースド・メディスン) に基づく歯科医療の提供を目指すために、 収集した医療情報を分析し、課題の実証・問題の発見に役立てることができる。に修正。

【到達目標2の教育内容・教育方法】 ②と③は、”診療ガイドライン、システムティックレビュー (メタアナリシス)、ランダム化比較試験 (RCT)、その他の臨床研究を図書館

医療情報検索システム（MEDLINE 等）を通じて検索させ、批判的吟味を行わせる。”
をランダム化比較試験（RCT）、その他の臨床研究を図書館医療情報検索システム
（MEDLINE 等）を通じて検索させ、批判的に考察させる。に修正。

【到達目標 2 の到達度の測定手段】①～③は，“クリニカルクエスチョンに対する回答を”
エビデンスとともに提出させ、確認する を臨床で遭遇する問題に対する回答をエビデ
ンスとともに提出させ、確認する。に修正。

V. 次回の開催日程

8月24日(火) 10:00 ～ 12:00